

## 牧師室から (1.24)

1月19日のテレビからのニュースで車事故の映像が流れていた。吹雪で視界が悪くなり、トラックと乗用車が衝突して重傷者と死亡者が出たようである。そして、その影響で少なくとも40～50台の車が絡む多重事故であると伝えられた。雪に覆われて止まっている多くの車の光景が心痛ましいものであった。その事故現場である宮城県古川は私には馴染んでいる地名である。

石巻にいる時に、古川にある同じ地区の教会が無牧になり、一年間月一回は礼拝説教で訪ねたことがあり、信徒の方々とも親しい交わりをしていただいた。

日曜日の朝、車を走らせて行くと、とても爽快な気分になる。春は田んぼに植えたばかりの緑の稲が並んでいる。夏になると道の両側が濃い緑色で広がっていた。秋に入ると田んぼは黄金色に変わり、日差しを受けて光っている様子は息を呑むほど美しい。また冬は雪によって真っ白な景色が絵のようである。

しかし、ある冬の日曜日にその教会に向かっていた時のことである。前日の雪で道路が所々凍っていたので、車をゆっくり走らせて行っていたが、あるところで車がいきなり滑り、大きく360度一回転をしてしまった。ブレーキを踏んだらいけないという思いが瞬間的に浮かんで来て、ハンドルだけをしっかりと握り、何とか落ち着くことができた。何よりも幸いなことは、前方からの車がなかったし、後ろの車はだいぶ離れていたため事故は免れたことである。本当に怖かった。

テレビが告げる古川での事故のニュースで、あの日の思い出と共に、その厳しい自然の中で暮らしている人々、吹雪の中で夜通し物を運ばなければならない人たち、そして雪の中を歩いて行って、教会で礼拝を守っているに違いない懐かしい人々の顔を思い浮かべながら、何となく切ない気持ちになる。

(鈴木善姫牧師)